

キリストの使徒たちが伝えたこと(3)  
—使徒信条とは—  
「父なる神(1)」

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父(ちち)なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを審きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。  
アーメン。

1. はじめに

(1) 使徒信条について

- ①三位一体論を土台とした信仰告白である。
- ②キリスト論が一番強調されている。
- ③使徒信条は、使徒たちの作品ではないが、使徒たちの教えが要約されているので、使徒信条と呼んでもよい。
- ④洗礼式のために、また、異端との戦いのために必要となった。

(2) 「信ず」という言葉について

- ①信仰とは、単なる知的承認ではない。
- ②信仰とは、個人的な信頼のことである。
- ③信仰とは、信じる対象としての神が存在することである。
- ④信仰の有効性は、その人の熱心さによってではなく、信じる対象によって決まる。

2. アウトライン

- (1) 聖書が使用する比喩的言葉
- (2) 父なる神
- (3) 人格を持った神

このメッセージは、父なる神について考えようとするものである。

## I. 聖書が使用する比喩的言葉

### 1. 神という言葉について

(1) ヘブル語でエロヒム(エル)、ギリシア語でセオス。

- ①普通名詞。神々を指す言葉である。
- ②日本語の神も、多くの神々を指す言葉である。
- ③聖書の神は、どういう神かを示す必要がある。

(2) 旧約聖書の啓示

- ①イスラエルにとっては、彼らをエジプトから導き出した神、約束の地を与えた神である。
- ②アブラハム、イサク、ヤコブの神である。

(3) 新約聖書の啓示

①旧約聖書の神概念が、イエス・キリストを通してさらに鮮明になった。

②ヘブ1:1~2a

「神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました」

③2コリ1:3

「私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように」

④ヨハ14:9

「イエスは彼に言われた。『ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、「私たちに父を見せてください」と言うのですか?』」

### 2. 神を啓示するための比喩的言葉

(1) 種々の言葉がある。

- ①羊飼い
- ②王
- ③岩
- ④父

(2) 詩 23 : 1~3

「【主】は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます」

(3) 神と信者の関係が、羊飼いと羊の関係にたとえられている。

①この詩篇が書かれた当時の人たちには、非常に分かりやすい比喻であった。

②現代の都市住民には、さほどの実感がない。

(例話)「羊飼いが見た詩篇 23 篇」。著者フィリップ・ケラー

(宣教師の家庭に生まれ、東アフリカで育つ。羊の牧場主としての経験あり)

(4) 比喩的言葉には限界がある。

①神は私たちを守り、導かれる。

②羊飼いは人間であるが、神は人間ではない。

③羊は家畜であるが、私たちは家畜ではない。

3. 比喩的言葉を使用する理由

(1) 神は、私たちのレベルにまで下ってご自身を啓示してくださる。

①ヘブル人の文化と言語を通して、ご自身を啓示された。

②神の子が人となって、ご自身を啓示された。

(2) 私たち人間は、神を直視することができない。

(例話) 日食観察には、下敷き、サングラス、ゴーグルが必要。

①比喩的言葉は、太陽を観察するための道具と同じである。

## II. 父なる神

### 1. イエス・キリストの教え

(1) マタ 6 : 9

「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように」

(2) マタ 7 : 11

「してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありますでしょう」

(3) ルカ 15 章の放蕩息子のたとえ

(4) ヨハ 20 : 17

「イエスは彼女に言われた。『わたしにすがりついてはいけません。わたし

はまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに「わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る」と告げなさい』

## 2. パウロの教え

### (1) ロマ1:7

「ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように」

### (2) 1コリ8:6

「私たちに、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちがこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちがこの主によって存在するのです」

## 3. 比喩的言葉の限界

### (1) 人間の父の特徴

- ①子どもを誕生させる。
- ②子どもを守り、養育の責任を持つ。
- ③父は人間である。
- ④父は男性である。
- ⑤時には、子どもを虐待することがある。

### (2) 以上の特徴の③～⑤は神に当てはまらない。

- ①地上の父親から神を想像できない人がいる。
- ②神の特徴から、地上の父親を見るとよい。

## 4. 神には性別はない。

### (1) 理由

- ①性別は、被造世界の一部である。創造によって作られた特徴である。
- ②もし神に聖別があるなら、多神教の神になってしまう。

### (2) 聖書は、女性イメージを用いて神を描写している。

#### ①イザ49:15

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない」

#### ②詩51:1 (ダビデの悔い改めの詩)

「神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください」

- \* 「御恵み」はヘブル語で「ヘセッド」。
- \* 「あわれみ」はヘブル語で「ラハミム（単数はラハム）」。
  - ・この言葉は、子宮のことである。
  - ・胎内で胎児を守っているイメージ
  - ・イザ 66：12～13 参照

(3) 神を父と呼ぶ理由

- ①古代中近東における父親の役割が、神に性質を表現するのに適していた。
- ②神が男性であるとは教えていない。
- ③神は父としても、母としても、描かれている。
- ④「母なる神」という言葉を使用していない理由は何か。
  - \*多神教、多産の神、豊穡の神をイメージさせる。

### Ⅲ. 人格を持った神

1. マルティン・ブーバーの哲学（オーストリア出身のユダヤ系宗教哲学者）

(1) 「我 - それ」の関係

- ①科学的、実証的な経験や知識は「それ」というよそよそしい存在に過ぎない。
- ②これは、プロテスタントの自由主義神学者への批判となる。
- ③さらに、知識探索のためにだけ聖書を読む人も、同様の批判を浴びる。
- ④「我」は能動的であるが、「それ」は受動的である。  
(例話) ロボットペット（アイボ）はなぜ生産中止になったのか。飽きる！  
面倒でも生きたペットがいい。

(2) 「我 - 汝」の関係

- ①人格と人格の交流は、相手と自分を関係性として捉えることから生まれる。
- ②ユダヤ教の神学の神髄。「世界の奥にある精神的存在と交わること」
- ③彼は、「the Absolute Thou」という言葉を使っている。「絶対的汝」。

2. 神は分析不可能な人格的存在である。

(1) 礼拝のない神学はなく、神学のない礼拝もない。

- ①「我 - 汝」の関係において、神を認識する。

(2) 聖書の啓示は、客観的真理の啓示ではなく、神の自己啓示である。

- ①神は、単なる客観的な研究材料ではない。
- ②神を知るとは、神との関係のことである。

(3) 神学とは、神の探究ではなく、自己啓示された神への応答である。

- ①神は語られた。
- ②それゆえ私たちは、その内容を理解しようと努力する。

(4) 神は、契約を結ぶ神である。

- ①約束したことをすべて果たされる。

(5) 神は、罪人をご自身と和解させる神である。

- ①2 コリ 5 : 18~19

「これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自身と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自身と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです」

- ②キリストの死は、神と私たちを和解させるためのものである。
- ③しかし、それだけで和解が成立したわけではない。
- ④それは和解の土台を提供しただけである。
- ⑤私たちの応答があって初めて、和解が成立する。
- ⑥「絶対的汝」との和解は、私たちをすべての不安や罪責感から解放する。